

体育学研究科【学位授与の方針】

体育学研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

体育学研究科体育学専攻の人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を習得させ、博士後期課程に進学して体育学・健康科学研究の専門職を目指す人材を養成するとともに、指導力向上を志す社会人の再教育を行い、高度の技術と指導力を備えた人材を養成する。

〔博士後期課程〕

博士後期課程は、体育学・健康科学の領域における専門知識を習得させ、体育学研究を自立的に遂行できる能力を培い、高等教育機関や研究所等において教育研究職に従事できる人材を養成する。

<学習成果(教育目標)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

体育学研究科博士前期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で修士論文を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して修士(体育学)を授与する。この学位を授与される者は以下のような能力や資質を有する。

1. 体育学全般にわたる広く深い学識を有し、体育・スポーツ・健康などに関連してわれわれが直面する諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、社会的な要請に応えるために自ら考え、表現できる。
2. 体育学を専門とする自立した研究者としての学識を有し、博士後期課程に進学して独創的な研究を行なうことができる。
3. 専門的実務者としての能力を身につけ、その知識と技能を用いて社会に貢献できる。
4. 高い倫理観を身につけ、研究者または職業人としての自覚を持つ。

なお修士論文の審査・判定基準は以下のとおりである。

1. 先行研究の整理と問題設定が適切であること。
2. 章立てを含めた論述の流れが適切であること。
3. 研究方法の選択・実行が適切であること。
4. 注や図表処理等も含めて、論述が的確でかつ分量的にも適切であること。

5. 設定した問題の解明が的確・適切であること。

修士論文計画書の提出、修士論文経過報告会での発表を経て修士論文を作成し、口述試験と併せて合否判定を行なう。

〔博士後期課程〕

体育学研究科博士後期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で博士論文を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して博士（体育学）を授与する。この学位を授与される者は以下のような能力や資質を有する。

1. 体育学の専門家としての高度な研究能力とその礎となる豊かな学識をもつ。
2. 独創的な研究活動を旺盛な意欲を持って遂行し、研究の成果を広く発表することにより優れた研究者として認められる。
3. 体育・スポーツ・健康などに関連してわれわれが直面する諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、解決への道筋をつけていくことができる。
4. 高い倫理観を身につけ、研究者または職業人としての自覚を持つ。

なお、博士論文の審査基準は以下のとおりとする。

1. 自立した研究を行う能力や高度の専門的業務に必要な能力を有すると認められる内容であること。
2. 論旨が従来の研究のまとめや整理ではなく、独創的であること。
3. 創意を支える論証が確かであること。
4. 当該研究の属する分野における国内外の学会等に発表して、その論評に耐え得ること。
5. 使用した資料は提出者が収集したものであること。使用した資料が従来のものである場合は、その分析が斬新であること。

博士論文計画書の提出と、計画発表会および博士論文中間報告会での発表を経て博士論文を作成し、口述試験と併せて合否判定を行なう。